



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第100号 2016年9月21日 発行



日本作業療法士協会設立50周年事業in石川「これからもあなたと共に」

石川県リハビリテーション風船バレーボール大会 第30回(30年目)を迎える!!

公益社団法人石川県作業療法士会 会長 進藤 浩美

石川県リハビリテーション風船バレーボール大会が、30年目を迎える。私は、マタニティーの1年を除き29回参加している。非常に感慨深いものがある。

今年は、日本作業療法士協会設立50周年である。協会ニュース等で案内されているが、キャッチコピーは、「これからもあなたと共に」である。コンセプトは、作業療法、リハビリテーションの主役は利用者、関わる対象であり、その方々一人ひとりの暮らしに寄り添い、作業療法が暮らしの拠り所になるように、「あなた」と共に作業療法が創造され、お互いの人生が良くなっていくようにという願いが込められている。

この50周年事業が全国各地で開催される。石川県としては、当会の公益事業の原点であり、29年継続している『リハビリテーション風船バレーボール大会(以下風船バレーボール大会)』に関する事業を二つ計画している。29年継続している今大会は、私たちの力となってくれることを信じている。

『風船バレーボール大会』は、身体、知的、精神、発達など障がいの違い、子供から高齢者まで年齢の違いを超えて、同じルールで楽しむことができるスポーツであり、重度の障がいを持っていても可能なスポーツなのである。そして、この大会に出場を目指すことで、日々の生活時間に変化を与え、外出の機会を提供することで、生活行為が向上していくことも可能なのである。

まず、10月8日(土)いしかわ総合スポーツセンターで『第30回風船バレーボール大会』を開催する。この大会を見たこともない、参加したこともない施設の方々にお越しいただけるようにご案内し、この大会を通じて得られるものについて、理解を深めていただきたいと考えている。例えば、選手を2名しか連れて来ることができない施設の方も、選手を連れてくるのが困難な施設の方にも来ていただけるように案内を検討中である。継続参加している方にもお礼を申し上げたいと考えている。

次に、10月26日(土)～27日(日)に石川県地場産業振興センターで開催する‘第16回東海北陸作業療法学会’での『ミニ風船バレーボール大会』事業である。日本作業療法士協会会長も理事も出席をお願いしている。この『ミニ風船バレーボール大会』は、一般の方々も参加可能な日本海側最大級の福祉機器展の場所で行う。先の大会で優秀な成績をおさめられた皆さんに、試合を行っていただき、一般市民の方々に感動を届けたい。さらに、東海北陸作業療法各県士会から作業療法士のチームを結成していただき、試合を体験してもらう。このことにより、『風船バレーボール大会』を広く普及していただきたいと考えている。

石川県作業療法士会も設立33年となるが、常に行ってきたことは、石川県から日本に、日本で最初、日本で一番を目指すことであり、これからも石川県からという精神を忘れずに50周年を目指して行っていただきたいと考えている。

第30回記念 石川県リハビリテーション風船バレーボール大会開催にあたり

企画部担当理事 小池 隆行 (城北病院)

昭和62年より毎年開催してきた「石川県リハビリテーション風船バレーボール大会」も今年で第30回の節目を迎える。30年の間に当会も公益社団法人となり、事業の公益性が強く求められるようになった。この風船バレーボール大会は当会の活動の原点であるとともに、数ある当会事業の中で公益性の高い事業の一つとして会の総力を挙げて取り組んでいる。さらに今年の大会は、日本作業療法士協会設立50周年の記念事業としての意義もあり、会員が所属する施設長様宛にご覧に来ていただけるよう案内をお送りした。

記念すべき第1回大会は、昭和62年11月1日に青山彩光苑で開催された。この時の参加チームは、珠洲市総合病院、恵寿総合病院、恵寿総合病院外来、青山彩光苑、青山クラブ、公立能登総合病院、鹿島町、金沢大学医学部付属病院、石川県立中央病院、第二石川整肢学園、辰口芳珠記念病院、リハビリテーション加賀八幡温泉病院の12チーム。会員の作業療法士が大会委員として一から手作りで準備と運営にあたり、会場となった青山彩光苑からも多くの職員にご協力いただいた。その後第6回大会ではシルバー部門を、第10回大会では記念大会としてお楽しみ部門をそれぞれ設置した。第15回からはお楽しみ部門を常設、第25回大会では特別賞として連続出場されている2名の方を表彰させていただいた。また担当部局は現在企画部に固定化されているが、黎明期には持ち回りで事務局を担ったと聞いている。

昨年の第29回大会までの状況を振り返ると、青山彩光苑と石川県立中央病院は第1回以来29回の全大会出場をいただいております。他にも7つの施設が20回以上の出場を達成している。これらを含め出場経験のある施設は全部で93施設、データベースが蓄積している第11回から第29回までの参加者実数は2,580名にのぼる(詳細は表1、表2に示す)。

この30年間、日本社会の高齢化が急速に進行し、入院期間の短縮とともに入院患者の大会参加、すなわち社会参加を実践することは難しくなった。一方で介護関連施設や障がい者の施設においては、社会参加や健康維持のために参加する施設が増えてきたが、これらの施設においても、介護度と屋外活動の問題、介護報酬の面などの諸事情により参加は近年減少傾向となっている。しかし我々が考案した障がいの違いを超えて楽しめるスポーツとしての意味は、今の時代にあってもいささかも減じることはなく、今後もこの大会が継続することが望まれる。そのためには、会員一人ひとりの理解と行動が重要である。

今年は第30回記念大会として表彰を行うとともに、記念品を配布し、昨年試行した「体験・交流コート」を設置し飛び込みでの試合もできるよう準備をすすめている。チームとして出場できなかった施設の方にもぜひこの場を活用していただきたい。また、風船バレーボール大会を見たことがないという会員には、短時間でも会場に足を運び、実際に体験したり、その場の雰囲気を感じていただきたい。10月8日、多くの方と感動を共有できることを楽しみにしている。

(表1) 大会参加施設数

大会参加回数	施設数	割合
10回未満	64	68.8%
10回以上20回未満	20	21.5%
20回以上28回未満	7	7.5%
29回(全大会参加)	2	2.2%
合計	93	100%

(表2) 大会参加者数(第11回大会より登録システム導入)

大会参加回数	人数	割合
10回未満	2,536	98.3%
10回以上18回未満	42	1.6%
19回(第11回より全大会参加)	2	0.1%
合計	2,580	100%

MTDLP北陸三県合同実践者報告企画者側から

公益社団法人石川県作業療法士会 副会長/事務局長
石川県MTDLP推進委員会 委員長 **東川 哲朗**
(金沢脳神経外科病院)

7月に北陸三県合同 MTDLP 事例検討会が開催された。これは先の全国推進会議の際に他のいろいろな地区で MTDLPの事例検討会を合同で開催していることを知り、北陸3県でも是非同じように合同で開催できないかということで企画した。記念すべき第1回は石川県で開催することとなった。開催曜日も検討されたがせっかくの顔を探せて集う機会であることを考え事例検討だけではもったいないと考え懇親会を合わせて開催することとした。

事例検討会は各県から5事例ずつを募り(当日出席都合で計14題) 3会場同時進行という形式を用い進行した。60名を越える参加者が集まり大変盛会となった。石川方式とも言われる、各分野・経験世代ミックスの検討方式は、普段の自身が勤務する病院・施設以外の領域の方々の意見を聞ける場になり、有意義な学習機会となる。今回も様々な分野の方々の意見を聴くことができ、勉強することができたのは、参加者の皆さんがほぼ共有する思いだったのではないだろうか。

場所を移し催した懇親会には、福井・富山からも参加頂き盛会なものとなった。全国の推進会議の際にも、この種の懇親会は開かれるが、北陸三県の場合も同様、MTDLPの話に止まらず、作業療法について遅くまでディスカッションする楽しい場となった。

次回の北陸三県合同事例検討会は、来年福井県で開催を予定している。



北陸三県合同MTDLP事例検討会に参加して

金沢脳神経外科病院 **袋井かおり**

7月9日北陸三県合同MTDLP事例検討会が開催され、参加・発表の機会を得た。他県からの参加者もあり、活発なディスカッションが行われ、それぞれの地域の多様な分野で行われている作業療法はとても参考になった。そこで感じたのは、対象者の作業を実現させるには家族の協力が必要であり、どの報告でも家族の協力をどう得るか、努力されていたということだ。作業を構築することは周囲の人の生活についても考える必要があり、マネジメントシートを使用することで取りこぼしなく生活全体を見る作業がしやすくなるのだと改めて感じた。今後もっと家族を含めた生活全体を見渡せるように努力していきたい。

今回このような場でご意見を頂けたことは非常に有意義であり、今後も多くの方が発表を通し視野を広げる機会になればと思う。OTとして県内に留まらず広く学ぶことは重要であり、他県の方の報告をもっと聞いてみたいと興味が持てた。また参加したいと思う。来年は福井で開催予定であり、さらに発展した会となるよう多くの方が参加することを期待したい。

連載企画 **第2回** 地域包括ケアシステム構築に向けて

小松市地域包括ケアシステムの構築を目指して

小松市長寿介護課 川畑圭良子

小松市は、平成28年3月に総合事業「はつらつシニア支援事業」を開始した。介護保険等のサービス利用が必要になると、友人・知人との関係は希薄になり、支援を受ける一方向の人間関係に変化してしまう。しかし、これからは友人・隣人との“お互いさまの助け合い”の輪を広げていくことで、地域社会の中から切り離されず、なじみの関係を継続できるようなシステムを構築していく取組が必要である。当市の総合事業は、地域住民が主体的に行っている“地域サポートクラブ”や“ミニデイ”の普及推進と、退院直後介護保険を受けることなく、リハビリのサービスを集中的に行うことで、自立支援を促す“短期集中予防サービス”が特徴的である。

これらの新しい事業は、住民の理解が重要であることから、昨年度より地域住民や関係機関への周知活動を積極的に行っている。また、現在進行形で、Team Dementia（チームディメンシア）養成講座や、居宅連絡会、10か所の高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）開催のミニ地域ケア会議・地域連絡会等、各種会合や事業等の開催を通して、地域住民や多職種が参加し、顔の見える関係づくりを行っている。

以前より、日頃の業務において、「OT,PT,ST間の連携がまだまだ希薄ではないか」「今まで個別ケースにはばかり関心があったのではないか」「もっと顔の見える関係づくりが必要ではないか」という思いの中で、“小松市地域リハビリテーション連絡会”が平成28年4月1日ようやく発足された。この会の目的は、リハビリ専門職による多角的で協働的な支援を推進することと、当事者・保健・医療・介護・福祉および生活に関わる様々な人々の相互協力や支え合いを推進し、小松市の地域包括ケアの向上に寄与することである。

今年度は、年3回の連絡会と年4回の幹事会を企画しており、第1回連絡会では「小松市の地域包括ケアシステム」と題し、小松市長寿介護課長による講義や施設紹介、情報交換会を行い49名の参加で大変好評であった。また、当会はホームページも開設しているのでぜひご覧いただきたい。

行政に勤める私の業務としては、高齢者総合相談センターの後方支援、ミニ地域ケア会議等への出席、市主催の地域ケア推進会議や各種部会、認知症施策における初期集中支援事業、ケアプラン会議、一般介護予防事業等、多岐に渡っているが、中でも作業療法士としての視点（個々が輝くための方策）が重要となっている。総合事業における今後の事業展開については、今までの行政主導の施策では難しい面も多く、全ての業務において“多職種連携の協働作業”が必須であり、特に生活面における介護予防への重点的な取組みが、明るい未来への重要な鍵を握っている。皆様も市町村事業への関心を益々高めていただき、様々な課題解決への提言をお待ちしている。今後もOTの皆様のご理解とご協力を期待する。

多職種によるミニ地域ケア会議の様子(必要時地域住民も参加)



平成26年開始当初



平成28年現在

開催迫る！当日抜き取って持ち運べる 第16回東海北陸作業療法学会プログラム

1日目：11月26日(土)

【日本作業療法士協会設立50周年記念事業(一般公開)】入場無料

- ・ 日本海最大級の福祉機器展 9：00～17：00
「OTが厳選して集めた現場で使える福祉機器の紹介：61企業による出展」
- ・ 大会特別企画シンポジウム 13：30～15：30
「人の暮らし、生きることを創造し実践する臨床家とは」
NPOバーチャルメディア工房ぎふ 理事長 上村 数洋
金沢美術工芸大学 名誉教授 荒井 利春
第16回東海北陸作業療法学会 学会長 寺田 佳世
- ・ 風船バレーボール大会 16：00～17：00
「石川県で生まれ、今年で30年を迎える
子供からお年寄りまで一緒に楽しむことができる風船バレーを紹介します」

●1日目：学会プログラム

	1ホール	2ホール	3ホール	4ホール	5ホール	ポスター	展示会場1	展示会場2	展示会場3
	新館1F	本館2F	本館2F	本館3F	新館2F	本館3F	本館1F	本館1F	本館1F
	コンベンションホール	第1研修室	第2研修室	第6研修室	第10研修室	第5研修室	大ホール	展示・商談ホール	第7研修室
9:00							機器展示	機器展示	機器展示
10:00	セミナー 急性期循環器センターにおける生活行為への取り組み 講師：生須 義久	セミナー 働く幸せ -雇用と就労と地域生活の支援- 講師：宮崎 宏興	セミナー 呼吸器疾患患者にどう向き合うか -生活を支援するエキスパートとして必要な知恵とコツ- 講師：寺本佳津明	セミナー 発達しようがいに対する作業療法の実践とは 講師：小野 昭男		ポスター 受付・貼付			
11:00									
12:00									
13:00	開会式					ポスター OTカフェ			
14:00	大会特別企画 シンポジウム 人の暮らし、生きることを創造し実践する臨床家とは シンポジスト： 上村 数洋 荒井 利春 寺田 佳世			特別支援教育での実践に関する情報交換会 -東海北陸地区-					
15:00									
16:00	口述発表1 脳血管1 5演題	口述発表2 高次脳1 5演題	口述発表3 チーム医療 5演題	口述発表4 発達障害1 5演題			県士会対抗 風船バレー ボール大会		
17:00									

2日目：11月27日(日)

【日本作業療法士協会設立50周年記念事業(一般公開)】入場無料

- ・ 日本海最大級の福祉機器展 9：00～16：00
「OTが厳選して集めた現場で使える福祉機器の紹介：61企業による出展」
- ・ 一般公開講座 14：00～15：30
「パラリンピックを目指して～スポーツの魅力と生きる力」
車椅子バスケットボール男子日本代表アシスタントコーチ 京谷 和幸

●2日目：学会プログラム

	1ホール	2ホール	3ホール	4ホール	5ホール	ポスター	展示会場1	展示会場2	展示会場3			
	新館1F	本館2F	本館2F	本館3F	新館2F	本館3F	本館1F	本館1F	本館1F			
	コンベンションホール	第1研修室	第2研修室	第6研修室	第10研修室	第5研修室	大ホール	展示・商談ホール	第7研修室			
9:00	シンポジウム これからの10年、 作業療法士は 何をしていたか ばならないのか シンポジスト： 池澤 浩美 浅野 有子 谷 隆博 長谷川 敬一 中森 清孝	セミナー 終末期を生きること を支援する 作業療法士として 共に働き学ぼう 講師：島崎 寛将	セミナー 作業：作業療法の 手段と目的 講師：吉川 ひろみ	セミナー 臨床場面の 人間関係における コミュニケーション・ スキル 講師：長田 久雄	口述発表5 内科疾患 6演題	ポスター発表 運動器：5演題 精神障害1：5演題	機器展示	機器展示	機器展示			
10:00	シンポジスト： 池澤 浩美 浅野 有子 谷 隆博 長谷川 敬一 中森 清孝	口述発表6 上肢機能 6演題	口述発表7 運動器2 6演題	口述発表8 精神障害1 6演題	口述発表9 ADL1 6演題	ポスター発表 高次脳：5演題 精神障害2：5演題				企業プレゼン 20分ずつ	機器展示	機器展示
11:00	セミナー 心理社会的健康に 着目した認知予防 のための地域介入 講師：竹田 徳則	口述発表10 高次脳3 6演題	口述発表11 運動器3 6演題	口述発表12 精神障害2 6演題	口述発表13 症例報告 6演題	OTカフェ						
12:00	口述発表14 MTDLP 6演題	口述発表15 地域貢献・他 5演題	口述発表16 ADL2 5演題	口述発表17 発達障害2 5演題	口述発表18 脳血管2 5演題	ポスター 撤去				機器展示	機器展示	
13:00	一般公開講座 パラリンピックを 目指して ～スポーツの魅力と 生きる力～ 講師：京谷 和幸											
14:00	閉会式											
15:00												
16:00												

託児所申し込みは10月15日(土)

事前参加登録は10月31日(月)まで受け付けています。

詳細はWebでご確認ください。皆様のご参加をお待ちしています。

各支部支援活動状況

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

東支部では7月1日に第1回の事例検討会を実施した。参加者26名、発表は2題と少なめであったが、その分内容の濃い討議や交流が得られた。また、6月4日には百万石踊り流しの幹事役を東支部で担当した。参加者である浅ノ川病院の平林さんに感想を述べてもらったので以下に記す。



『県士会の一員として踊り流しに参加した。大学進学とともに金沢に住み始めて5年になるが、踊り流しはもちろん百万石まつりへの参加も初めてだったので、不安も感じつつ当日を楽しみにしていた。当日は、新人研修会後慌ただしく浴衣に着替え、踊りの練習をする間もなく本番を迎えた。初めはキョロキョロと周りを見ながらなんとか踊りを覚えようと必死だったが、2時間という時間はあっという間で、終わってみると大きな達成感と充実感を感じることができた。また、踊り流しを通して他病院の作業療法士の方々とも交流を持つことができ、自分にとってとても貴重な体験となったと思う。』

金沢西支部

公立つぎ病院 苗山 卓弘

今回、金沢西支部連絡会と第1回事例検討会を金沢脳神経外科病院にて開催した。今回は連絡会を開催したために支部の各施設から参加依頼し参加者は33名(内認定OT4名)、事例検討は2演題であった。支部連絡会では、支部活動に関して報告し、今年度の研修会案を参加者全員から発言してもらった。沢山の意見をいただき今後検討していきたいと考えている。事例検討会では認定OTをはじめ、参加者が多く様々なアドバイスや今後の考え方を検討する機会となった。

次回は11月に第2回事例検討会を企画している。今年度西支部では開催施設をその都度変更していく予定である。そのため詳細な日時、場所については公文書や県士会ホームページを確認し多くの参加者、事例発表者を期待している。

能登支部

公立能登総合病院 岡崎 律江

6月24日(金) 18時30分より第1回能登支部事例検討会を開催した。昨年度もっといろいろな施設の方が参加しやすいように開催場所を検討し、今回は初めて七尾松原病院3階作業療法室で行った。精神科病院のため出入口はもちろん、エレベーターも施錠管理がされていて、皆さんの協力のもと開催できた。参加者は31名、発表者は2名、完全側臥位での嚥下、前傾座位の食事動作についての発表だった。斬新な内容で熱い議論が交わされた。

その後、七尾松原病院のグループホーム、宿泊型自立訓練事業所、就労移行支援・就労継続支援(B型)の紹介があった。地域で暮らすためにハード・ソフト面にアプローチしておりとても刺激になった。また就労移行支援・就労継続支援(B型)で作っている洋菓子を提供して下さり感謝申し上げる。

次回は、町立富来病院にて10月28日(金) 18時半から第2回事例検討会を予定している。皆さんの積極的な参加をお待ちしている。



加賀支部

葵の園・丘の上 西村 幸盛

7月31日(日)、能美市根上総合文化会館で開催された「能美市民ボランティアフェスティバル」において、今年も作業療法の紹介や体験ができるコーナーを展開した。体験コーナーでは、マクラメやポンポン手芸を用いたアクセサリー作りを通じて、作業がもたらす治療の効果について、小さな子供さんから年配の方まで広く知ってもらうことができた。

さらに8月10日(水)、芦城クリニックにて、今年度第1回目となる事例検討会を開催し、認定OT4名を含む38名の参加のもと、8題の発表があった。症例の夫に対する介助指導や障害教育、症例の両親に対する障害受容までの支援など、症例に寄り添う人々に対するアプローチや、悲観的かつ喪失的な状況から有能感や価値感を見出し、創造へ転換していくプロセスの報告など、深く考えさせられる報告が印象的であった。東海北陸学会のプレ発表としていた為か、全体的に分かりやすいメリハリあるプレゼンテーションとなっていた。

尚、次回の報告会は10月19日(水)、芦城クリニックにて予定しており、多数の参加を期待している。



記念企画：県士会ニュース100号に寄せて

広報部担当理事 明福 真理子

県士会ニュースも100号の節目を迎えた、現在は年4回の発行に際して毎回編集会議を開催、紙面構成案を理事連絡会で承認の上作成・発行している。今回はニュース初期の編集に携わっておられた西川氏からもコメントいただきつつ、現在の広報部長はじめ各編集担当からの思いを聞き取ってまとめた。今後の県士会ニュースにご期待いただきつつ、会員各位の参画の場になるように一緒にご活用いただけるように工夫していきたいと考えている。

石川県立中央病院 西川 拓志

石川県作業療法士会が法人化する前後の数年間、編集長を務めた。当時はSNSなどが存在せず、県内作業療法士への情報提供など、会員誌的役割が大きかった。今回100号を迎えるにあたり、広報誌として県民の皆様へ我々の仕事ぶりをご報告し、障がいの軽減・適応だけでなく、予防も含めて、県民の皆様がより良い「作業」を遂行するためのアイデアを発信し社会貢献できるよう、一会員としても尽力していきたい。

編集担当 寺井 利夫(金沢医科大学病院)

初号発行より約四半世紀という時間、関わられた多くの会員の方々に想いを馳せると感慨深く、大きな責任を感じずにはいられない。今後は、県士会の情報発信型から会員参加型の広報誌となれることが、私なりの夢である。会員の皆様が自由に投稿できるシステムを構築し、読者会員自らで作るページができれば…と思い描いている。

編集担当 藤田 隆司(介護老人保健施設アイリス)

あまり県士会活動に参加していない・できていない会員にも少しでも興味をもってもらえるようなニュースになるために、専門性を追求するのも大事かと思うが作業療法の外から見たOTとは？や、違う立場からみてどんなことに期待されるのか？など違った視点から見るのもいいかと思う。例えばJAOTからでる「opera」のような読み物的なもので広く県民の利益につながるようなものにも変わってもいいのではないだろうか。

広報部長 酒野 直樹(金城大学)

石川県士会広報部長として県士会ニュースの編集・発行に携わって3年が過ぎ、今回で県士会ニュースも100号を数えることになった。これまで先輩方が築いてこられたものを継承しつつ会員の皆様に楽しんでいただけるような県士会ニュースをこれからも作っていきたい。

編集担当 杉浦 有子(みのり倶楽部みつや)

県士会会員のどの世代もが興味を持って記事を読み、その後の活動・活躍に活かせる内容を発信したい。そのために、各世代の人が記事を執筆するコーナーを設け同期や友達の記事を読もうと県士会ニュースを手にする機会が増え、互いにいろいろな世代の考えや活動を知り、いろんな面で触発されたり影響を受けていくニュースを作りたい。

編集担当 川口 朋子(金城大学)

仕事で中学生や高校生に作業療法について説明する機会があった、中学生の時点ですでに作業療法士になりたいと言っている生徒さんがおり、とても嬉しかった。作業療法士を志す若者が一人でも多くなるように、事業部と広報部が連携して中高生への作業療法PR報告も県士会ニュースに盛り込みたいと考えている。

研修会等のご案内

詳細などは随時HP等でお知らせします。ご確認ください。

現職者選択研修会(身体障害)

日時：9月25日(日)
場所：県リハビリテーションセンター

いしかわ介護フェスタ

日時：10月15日(土)
場所：県産業展示館3号館

平成28年度石川県訪問リハビリテーション実務者研修会

日時：12月17日・18日
場所：調整中

平成28年度 公益社団法人石川県作業療法士会 ◆◆◆第2回連絡会議 議事録◆◆◆

1. 日時：平成28年7月22日(金) 19:00～21:30
2. 場所：西泉事務所
3. 出席者：進藤、寺田、東川、安本、大西、明福、村田、小池、渡邊、河野、井上、高多、川上、堀江
4. 議事

第1号議案：各部・委員会・支部事業経過報告

- 【学術部】 堀江) 来年度の石川県学会の時期と学会長候補について提案。
- 【事務局】 東川) 認知症と地域包括ケアシステムへの対応を組織化する方針で取り組むことを報告。
障がい者の自動車運転について県士会として取り組むことを提案。MTDLP委員会の取り扱いについては本年度中に廃止、来年度より各部局事業とする方針であることを報告。
- 【財務部】 安本) 会費納入率：92.8% (会費未納者：54名)
- 【企画部】 小池) 第30回石川県リハビリテーション風船バレーボール大会の表彰企画について提案。
- 【事業部】 大西) 高校生対象のセミナーを東海北陸学会で同時開催することを報告。
- 【MTDLP】 東川) 県内の通所リハビリテーション事業所勤務OTR対象のアンケートを実施予定。

第2号議案：その他

- 【東海北陸学会について】 寺田) 学会案内パンフレット1万部が納品されたことを報告。
高多) 協賛業者等への文書等発送状況を報告。県内OTRに参加協力依頼の予定。
県内次回の実行委員会を9月1日県リハセンターで予定。

KINJO UNIVERSITY

社会福祉学部
社会福祉学科
社会福祉専攻 / こども専攻

医療健康学部
理学療法学科
作業療法学科

看護学部
看護学科

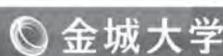
大学院
リハビリテーション学研究科
リハビリテーション学専攻(修士課程)



金城大学大学院
リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻(修士課程)

- ◆次世代リーダー養成のための実践力を高める教育体制
- ◆就業しながら学べる昼夜間講義・長期履修制度
- ◆授業料や奨学金制度など経済的負担にも配慮





〒924-8511 石川県白山市笠間町1200番地
TEL.076-276-1400 (代表) FAX.076-275-4316
<http://www.kinjo.ac.jp/>



在宅ならではの深い関わりが持てる!!
「退院後の人生を支えたい」そんな想いで介護の業界に入りました。お客様とじっくり関われる今の環境にやりがいを感じています。

デイサービス 太陽のリゾート白山
管理者(作業療法士) 中富 博久

↓こちらの事業所で募集中です↓

金沢市、野々市市、白山市の
◆デイサービス ◆訪問リハビリ(有料老人ホーム内勤務)

正社員 月給…270,000円～、時間…8:30～17:30または9:00～18:00
休日…週休2日(シフト制)、賞与年2回、社会保険完備、退職金あり

パート 時給…2,000円～、時間…1日2時間以上
勤務…1ヶ月の勤務回数応相談、労災あり ※時間に応じて雇用保険・社会保険加入

共通 昇給年1回、交通費あり、各種資格手当、日/祝出勤手当、OJT制度



金沢市、白山市を中心に16ヶ所の介護施設を運営しています。
<お問合せ> 株式会社サンウェルズ本社 人事部：東(ひがし)
☎076-272-8982

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
学校法人阿弥陀寺教育学園
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生学生会んやま健康クリニック
医療法人社団千木福久会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団洋和会

医療法人社団輪生会
医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団博友会
医療法人社団光仁会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
株式会社半田
株式会社ヤマシタコーポレーション金沢営業所
セントラルメディカル株式会社
三星自動車販売株式会社
株式会社メディベック
株式会社サンウェルズ

D会員

医療法人社団あいずみクリニック

新入会員名簿

勤務先	氏名	勤務先	氏名
やわたメディカルセンター	伊藤 萌子	恵寿総合病院	山林 桃子
米澤病院	下田 逸平	自宅	佐藤 奈保子
みらいのさと 太陽	鬢崎 真美		

会員動向

石川県作業療法士会員数 761名(平成28年8月19日現在)
認定作業療法士 31名

編集後記

2016年のリオデジャネイロオリンピックの真っ最中の寝不足の日々に、原稿の締め切りがあった。記念すべき100号の期限を遅れないか心配していたが、とても順調に編集作業ができた。今回のオリンピックでは、個人競技も素晴らしい結果だったが、団体戦やリレーでの好成績が目立っており、日本選手団の東京オリンピックに向けての団結力をとても伺える大会だったと思う。我々編集部も、団結して、今後の県士会活動の役に立てるニュース作成に携わってきたい。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：明福真理子、酒野直樹、入江啓輔、藤田隆司、杉浦有子、寺井利夫、川口朋子、谷内香織、橋本実、小川正人、買手登美子、平木咲代子、福井清美、前田勝也、中寺智也、山本真一郎、山崎佳子、川口日和、伊関浩克、山田ともみ、田中明、犬丸敏康

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：進藤浩美 印刷：ヨシダ印刷株式会社